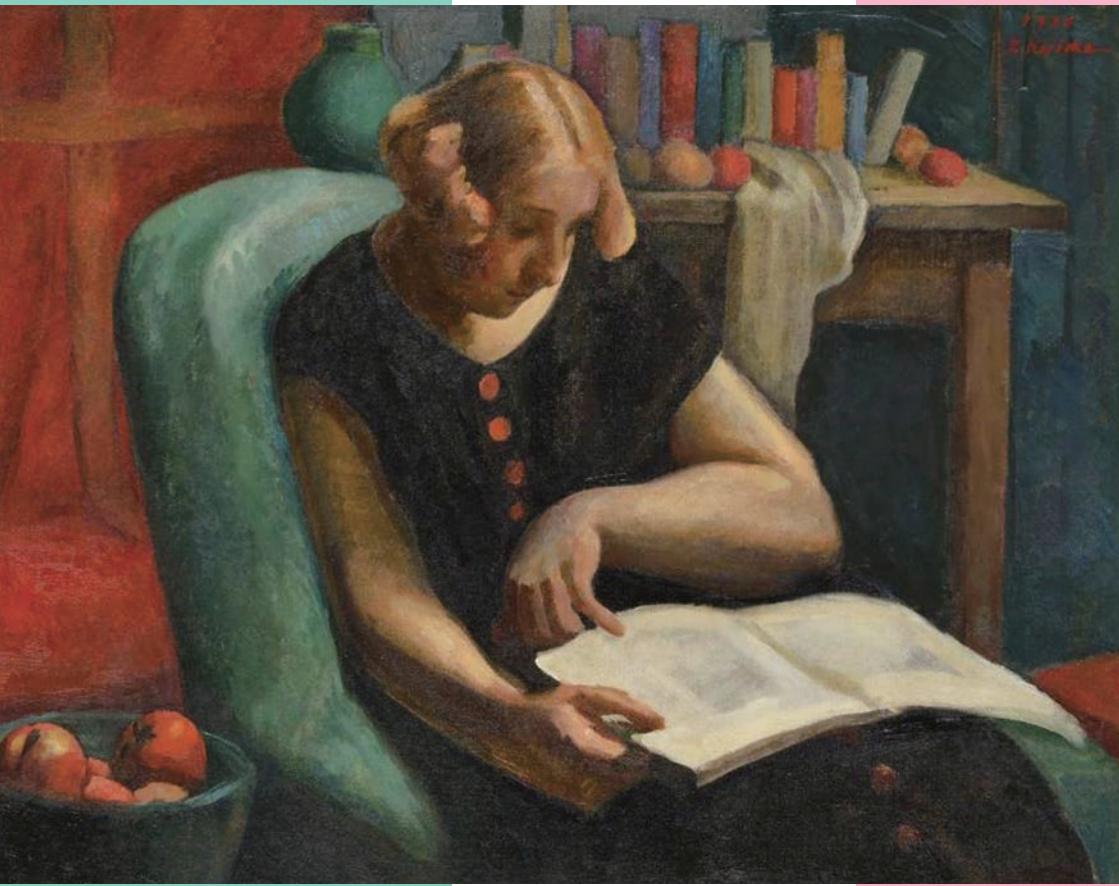


# 独立

R A N N U R L  
DOKURITSU note

No. 7

2018



## 86th THE DOKURITSU ART EXHIBITION

The National Art Center, Tokyo  
October 17 (Wed.) - 29 (Mon.), 2018  
10:00am - 18:00pm (Fridays 10:00 - 20:00)

If you show your passport,  
admission Free!





## 独立美術協会小史

**【誕生－初期】(1930－1959)** 1930年11月1日、清水登之(43歳)、鈴木保徳(39歳)、川口軌外(38歳)、小島善太郎(38歳)、児島善三郎(37歳)、中山巍(37歳)、鈴木亜夫(36歳)、里見勝蔵(35歳)、高畠達四郎(35歳)、林重義(34歳)、伊藤廉(32歳)、林武(32歳)、福沢一郎(32歳)、三岸好太郎(28歳)という14名の気鋭の画家たちが独立美術協会を設立し、翌年1月には東京府美術館で「第1回独立展」を開催した。

初期段階で野口弥太郎、須田國太郎、小林和作、海老原喜之助、鳥海青児らが会員として迎えられる。第1回展は3,058点、第2回展4,853点、第3回展では5,000点を超える搬入点数があったと記録されており、他の団体を超える「熱狂的な支持」を得ていたことが分かる。この期に独立は近代史に輝く画家集団として確固たる地位を築き、「独立展」は俳句の「季語」になった。

**【中期】(1960－1984)** 現代の洋画壇でも中心的な活躍を続けている会員が、この頃に新会員となって注目を集め始めた。画壇の芥川賞といわれた安井賞展には、独立所属の画家が多く入選・受賞した。その他昭和会展、安田火災美術財団奨励賞展など多くのコンクールや芸術賞で受賞してきた。また文化庁芸術家在外研修員として選出された画家も多く、活躍が続く。

**【現在】(1985－)** 独立展以外の活動では、この期も様々なコンクールで受賞したり、文化庁芸術家在外研修員に選ばれる独立所属画家の輩出が続く。また、毎年6月を中心に銀座界隈の画廊で独立出品者の展覧会が頻繁に開催され、美術界の話題になっている。

一方独立展内部の作品には、抽象作品だけでなく具象作品にも半立体的な作品が現れたり、写実的な傾向の作品やコンピュータを利用した作品も増えて表現がより多様化して行った。

独立展は、こうした新しく生まれようとする優れた才能には時を選ばず評価してきた。また「審査することは、同時に審査されること」という自覚を持って運営し、現在にいたる。

批評家・学芸員・会員によるギャラリートークも好評を博している。





## 第86回独立展地方巡回展(予定)

大阪展 → 大阪市立美術館  
2018年11月20日(火)-11月25日(日)

京都展 → 京都文化博物館  
2018年11月27日(火)-12月2日(日)

名古屋展 → 愛知県美術館  
2019年1月8日(火)-1月14日(月)

福岡展 → 福岡県立美術館  
2019年4月9日(火)-4月14日(日)

## 第87回独立展 予告!

2019年10月16日(水)-10月28日(月)  
国立新美術館 搬入日／10月3日・4日

詳しくは独立展ホームページまで！  
► <http://www.dokuritsuten.com>

## 独立春季新人選抜展 予告!

2019年3月25日(月)-3月31日(日)

## 独立ノート第7号

発行日／2018年10月1日

発行者／独立美術協会

Tel.03-3490-5881 Fax.03-6420-0026  
E-mail:dokuritsu@ceres.ocn.ne.jp  
URL:<http://www.dokuritsuten.com>

印刷／エーワンネットワーク・デザイン／八武崎勢津美

### -編集後記-

異常な猛暑の中、今回の独立ノートNo.7を制作するにあたり、快く取材を受けてくださった方、資料を提供してくださった方々に感謝申し上げます。編集は熱意を持って取り組みました。独立の熱い魂を感じていただき、より一層興味を持っていただくことが、編集室一同の総意です。更なる発展に繋がることを念じています。

独立美術協会は、絵を愛する心と情熱で支えられ今まで受け継がれてきました。創立以来の諸先輩の志は、今も鮮やかに独立展会場の作品を照らしています。

独立ノートは7号発刊となり、その長い歴史の一端を未来に伝える役割も担うようになりました。振り返り、また明日に向って生きるために、この小さな冊子が役立つことを願っています。

事務所委員 絹谷幸二

DOKURITSU  
note

### 目次

◆ 独立美術協会小史	表紙裏
◆ 独立ノート第7号発刊にあたり	1
◆ 独立レジェンド／小島善太郎	2
◆ 独立キーパーソン／本田希枝が語る	4
◆ アトリエ探偵団／安達時彦	6
◆ つぶやき生の声！	8
◆ 独立ホットニュース	10
◆ 六本木遊歩	12
◆ 独立人－ひとりたつひと－／田口貴大	13
◆ 第86回独立展地方巡回展予定	裏表紙
◆ 第87回独立展予告	

制作：独立ノート編集室

浅見千鶴 阿部栄一 津川めぐ美 佃彰一郎 中村光幸

半那裕子 松原潤 米田和秀

顧問：絹谷幸二 石井武夫 寺島穰

表紙：小島善太郎「読書（青きフォートュによりて）」1924－26年

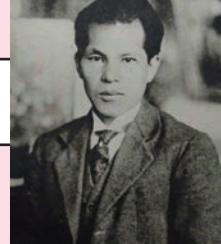
八王子市夢美術館収蔵

2018  
No.7

# 出会いと感動

小島善太郎

こじま せんたろう  
Zenitaro KOJIMA

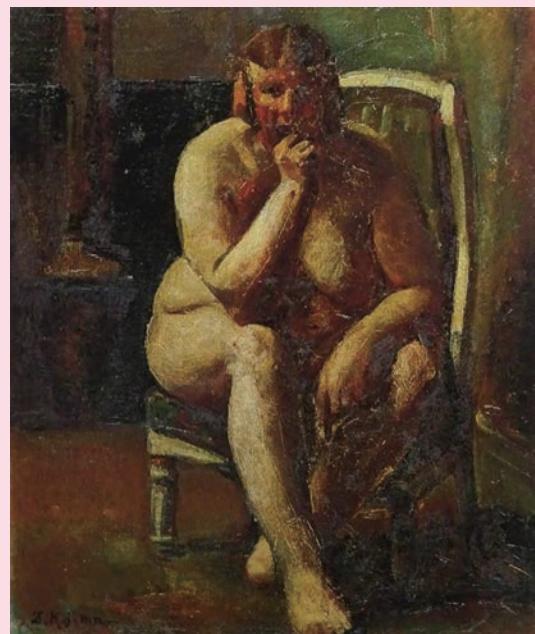


小島善太郎は明治25年11月16日、現新宿区の淀橋に父小島鎌太郎、母みのの六男として生まれた。父の生家は代々豪農だったが、父は農業を継がず漬物の製造卸商を営み、やがて破産した。善太郎は浅草の醤油屋の住込み奉公として11歳の時に家を出る。奉公時代、毎日の御用聞きの仕事に疲れ谷中墓地で休んでいる時、墓地で画架を立てて絵を描いている画家に出会い、その厳肅な姿に感動し自らも画家になることを決意する。そして決心が揺らがぬように大寒参りをし、願掛けをした。すると翌年、御用聞き先の中村覚(陸軍大将)にその志を見出され、中村家の書生となり、洋画研究所で学ぶことが出来るようになった。この出会いによって善太郎は画家としての一歩を歩み始める。この時分、善太郎の父と母が相次いで病死するなど、家族は不幸を極めたが、画学生としての成果は目覚ましく、コンクールで主席を得るなど順調だった。

その後、数々の展覧会に作品は入選するが次第に制作に迷い、苦しむ時期を迎えることとなる。後日、代表作となる「四谷見附」では、死を決意するほど悩んだ。そんな時、善太郎は大正4年欧州から帰国した安井曾太郎の滞欧作品に出会い、深く感動した。そして紹介状もないのに訪ねて師事をする。安井先生は「四谷見附」の作品を称賛し、そのことで善太郎は死を免れることができた。そんな重苦しい青春の後、善太郎は野村徳七(野村証券社長)の支援を受け渡仏し、2年半の留学を体験する。

善太郎は大正14年にパリから帰国して土方恒子と結婚した。そして大正15年5月、木下孝則、前田寛治、里見勝蔵、佐伯祐三らと共に1930年協会を結成した。その後この組織には新たな組織変革の動きがあり、昭和5年11月1日に発足した独立美術協会結成で結実する。善太郎は1930年協会末期と独立美術協会発足時の双方にまたがり事務会計方を担当し、スポーツマン役を演じ、情熱的に両協会の運営と維持に心を碎いた。

善太郎40歳の時、八王子郊外の南多摩郡加住村(現八王子市丹町)に転居しアトリエを構え、自然と人が通い合う風景を描くようになる。昭和46年、善太郎79歳の時、日野市百草の地に家、アトリエを



「エチュード裸婦(裸女)」1923年 小島善太郎記念館 収蔵

新築して移る。それからは悠々自適、庭いじり、家庭菜園を楽しみ、作品を多く描いた。80歳代ではさらに自然に対する感動が燃え上がり、小旅行をして、現地風景を描いた。その画面からは高らかな善太郎の命の歌が聞こえてくる。昭和59年7月、善太郎はヘルペスで入院、翌8月14日、入院先で長逝した。享年91歳と9ヶ月であった。



「ラ・リューシュと老画家」1984年 八王子市夢美術館 収蔵

## 小島賞について

独立展では、独立賞と並んで小島賞が設けられています。ご遺族様のご理解と多大なるご厚志に感謝申し上げます。その小島善太郎も20歳すぎまでは困窮きわまる環境にありました。しかし、生涯をかけて洋画の研究に励み、最晩年には実り豊かな生を全うされました。画伯の作品と生き方は、芸術が切実なものであり、人生の支えとなることを、私達に教えてくれます。

小島敦子さん



## 自分に責任感と信念の強い父

次女 小島敦子2018年記

お箸を持ったら責任、靴下をぬいだら責任、家を持ったら責任、絵具をパレットに出したら一番の責任と言い、いつも自分に厳しい人でした。晩年に「俺は独立を止める！名前を売る、絵を売る、の考えは…」と言い出し、私は「パパ達が創立した独立でしょ？一人になっても止めたらダメ！」と、父に向ってきました。今思うと90歳を迎える画家としての情熱を持ち続けた父を誇りに思います。

創立当時父は事務所を引き受けましたが、他の友人達は「貧乏の善太郎は金を使い込んでしまうぞ」と言って心配していたそうです。

子供の頃里見勝蔵先生のお宅で、子供ゲームで遊びたわむれ、鈴木亜夫先生のご家族と共に花見をし、児島善三郎先生にはお茶屋でご馳走になりました。八王子に住んでいた頃には三岸好太郎先生をはじめ皆さまよく泊りがけでいらっしゃいました。一つ一つ良い思い出です。

モデルになった時は「居眠りをすると醜(ぶ)女に描くぞ」と父に脅されました。私を描いた『一つのポオズ』は、絵画を超えた私の心の宝物です。

百草画荘は、5年前に小島善太郎記念館として創立しました。また、八王子、青梅にも美術館が設立されており、三市で父は生き続けられ、感謝で一杯です。独立美術協会は、今は亡き多くの方々の魂が責任を持って見守っていることでしょう。益々の輝きをお祈り申し上げます。



「一つのポオズ」1983年 八王子市夢美術館 収蔵

小島善太郎記念館▶



# 本田希枝が語る

ほんだ きえ  
Kie HONDA

1945年小田原市生まれ。  
1969年東京藝術大学美術学部油画科卒業、大橋賞受賞。  
1971年同大学院(絵画技法材料)修了。1984年独立賞受賞('86)。  
1987年独立美術協会会員推举。1994年第37回安井賞受賞



## 1. 値値観と現実

漸く最近スマホに替えました。何か変化がアルやナシや！操作を覚えるのに四苦八苦です。読書・活字が大好きで、なくては生きてゆけないくらいです。

父(文筆業)母(歌人)の、ひとりっ子、という家庭環境でしたが、子供の頃から自分の価値観のようなものが現実とズレている感じがしていました。そのため絵を描くことで社会のありようを探って確かめていけば私も生きていかれるかも知れないと思うようになったのです。公募団体に属することで保護され、育てられ、毎年期限があって描かざるを得ない積み重ねが、私を絵から遠ざけなかった最大の要因で、もし絵を描くことに出合わなかつたら、どうしていただろうと、よく考えます。

## 2. 制作の変遷

「人間って何だろう」というのが私のテーマですが、喪失感、漂う人たち、現代社会への懷疑！が近年、益々深くなってゆくのを感じます。人間って複雑怪奇で絵で表現できなさそう！と思いつつ、続けています。

ふり返れば、幾つかのターニングポイントと言えるものがありました。もうこれで絵をやめようかと思うと賞を戴き、続けなければ申し訛なくて、やめられなくなつて…ということの繰り返しだったような気がします。独立展では初出品から十数年間、低迷していました。始めた頃は自分がはっきりしていなかつたので当然、誰にも気に留められなかつた絵だったのですが、或る年、針生鎮郎先生にクロニクルで取り上げて戴いたのをキッカケに(当時は全員講評されなかつた)誰かに観ていただけたことが、とても嬉しかつたのです。独立賞・安井賞の頃は体力もあり、絵が湧き出てくる嬉しい時代でした。安井賞受賞の「漂流者」は、ノアの方舟とも云われ、そういう見方があるのだと、かえつて教えられ、現代社会へ意識を向けはじめた切っ掛け

りました。昔は窓から緑の林が見て自然が目の前にありましたが、  
で、様相も変わってしまいました。36年ここに暮らしています。

DOKURITSU - keyperson

となりました。

水面は常に動き揺らいで不安定。地面の下には時代の痕跡が積み重なっている地層がある、その下にはマグマ。この両極への興味は、現在も続く無意識の意識だったのでしょうか。

**3. 最近思うこと** 今年6月、小田原の個展で懐かしい作品と久しぶりに対面しましたが、やっぱり若い頃のエネルギーって凄いなー！

と、もう、あの頃には戻れないから、愕然として落ち込みました。

無欲と云われるけれど、あんまり無欲はよくない。野心とまでは言わないけれど、

何か目的を持っているとそれに向かって頑張る姿勢が、よい結果を生むことにもなる。何もないと考え続けなければならないので、見えている世界だけではなく、意識の世界を引きずり出して描いている最中が一番嬉しいけれど、どこかで破綻がくる。今それを感じています。これから先、物を見て描きたいという気持ちと物足りない気持ちが、せめぎ合っています。自分の世界観が、このところ説明的になってきているようだが、何とか活路を見出したいと思っている。絵を描く人間には、のめり込み過ぎず、客觀性が大事だと思います。

**4. 独立展のこれから** これからの方々の出現・参加に期待したい。とんでもない意見・作品も、ベテランが見守っていけるような雰囲気をつくりながら活性化に繋げていけたらと思います。先行き不透明な時代ですが、創立当時の精神が時々思い起こされて、独立展に所属する人々の気持ちの底に、受け継がれて行かれることを願っています。(インタビューから)

1.「漕ぐ」F150 2015年 2.「Doctoress Rの安息」F150 1984年 3.「晴れた日は象を見に」F150 1989年(早稲田大学収蔵)

4.「漂流者」F150 1993年(横浜美術館収蔵) 5.「ゲームY」S100 1980年 6.アトリエ 7.二人展にて 2010年 8.立体作品 2014年



2



3



4



5



6



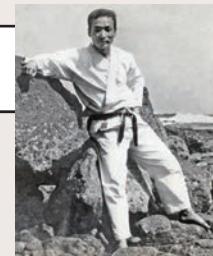
7



8



1



都心から電車に乗ること約1時間、緑豊かな住宅街に建つ  
安達先生のアトリエを探検。

青春のスナップ

1968年 伊豆稻取にて  
(空手の合宿練習の合間)

探 恩師・野見山暁治氏  
著作の絵本

探 PC や AV 機器、  
キーボード、ラッパ  
譜面台などが  
置かれている  
デスクエリア

探 野外用イーゼルボックス  
故小林数会員の遺品

部屋に飾られた前衛的な作品  
F10(藝大大学院在学中に制作)

《如月》 F50 1988年  
第23回昭和会・昭和会賞受賞作

《琴線》 F130 1988年  
第56回独立展・独立賞受賞作



### 探 制作用の釣り竿（2m50cm）

制作に適した筆や刷毛、又木炭に交換できる仕掛けが先端にある。



### 安達時彦 あだち ときひこ

1945 埼玉県川口市に生まれる  
1969 東京藝術大学美術学部油絵科卒業  
1971 同大学院美術研究科油絵専攻修了  
1988 第23回昭和会展にて《昭和会賞》  
第56回独立展にて《独立賞》  
1989 第57回独立展にて会員推举  
現在 独立美術協会会員運営委員  
日本美術家連盟運営委員



### 探 特別なテクスチャに地塗りされたキャンバス

探 理想の形態を追求する中で考案された、釣り竿を用いた独自の描法で制作は進められる。



窓辺にかけられた愛用の空手着



特別に調合された画溶液が保管されている流し台の棚

### 探 小品制作場所



# つぶやき生の声

毎年恒例の独立川柳★  
 その1:独立賞、今年こそはと  
 願をかけ(初詣)  
 その2:制作中、頭の中は表彰式  
 (9月のアトリエ)  
 その3:会場で、やっちまった!  
 と我が作品(展示作業日)

伊藤裕貴

銀座の  
 グループ展にて  
 ほめて頂いたのは初めて。  
 うれしさも時間経過とともに  
 恐ろしさに変わった  
 …精進あるのみ。

片山紘子

自分の作品を見つめると、  
 たくさんの課題ばかり。  
 考えるほど  
 何をどうすればよいのか、  
 わからない今がある。

中島伸一

今年も自分の  
 信じたことを  
 描いていこうと  
 心に誓った  
 Weg2018

松浦孝彦

なかなか  
 伝えられない  
 自分へのもどかしさを  
 抱えながら、  
 何か確かなものへと  
 今日も摸索する

大島幹

描けない、  
 絵がきれいに  
 なりそうだった。  
 それでも描く。  
 いい絵が出来るまで、  
 描く!

東田理佐

画面の中は広く深く、  
 無限に続く宇宙のようだ。  
 その中で、  
 今日も何かに掴まろうと  
 必死にもがいている。

兵藤由紀子

絵って何だろう?  
 自分らしく  
 ちゃんと感じる  
 絵が描けたら…  
 少し自分の世界が  
 変わるのかなあ。

酒井かや子

今、夢中になって  
 テーマの内面性を  
 追求する毎日。  
 いつ目的地に  
 たどり着けるのか。

安達秀子

果てはチリ、アクタ  
 となってしまうモノ達の  
 燻され尽くした中に  
 存在する鈍い輝きを  
 描きたい

小島恭子

子供の頃、  
 真っ白い紙を見て感じた  
 純粹な創作意欲。  
 無心になるって難しい!

山形牧子

このヤマを  
 こえられたら、  
 きっと見える。  
 今までと違う景色が。

大友まゆみ

主題には夢を語ろう。  
 画面には主題を求めて  
 決断を迫る。  
 構成は大胆に!繊細に!  
 情熱はたたきつけるよう。  
 盛り上げるよう。  
 今日は描けなくとも  
 明日には描ける!

松井通央

これが最後の  
 個展だろうか。  
 ベルージャに滞在した若い  
 頃の絵と、中でも帰国後描いた  
 人物群像(1970年)は剥離もなく  
 瑞々しい状態が残っていた  
 のには驚く。  
 独立展には1962年から出品。

高野雅彦

長谷川利行展を観た。  
 生活は落魄を好んだかの  
 様に無頓であった。  
 早描きの即妙な絵だが、  
 出来に斑があって  
 展示会としてのリスクは  
 大きい気がした。

山内和則

今年も独立展に先立ち、会員・準会員・会友・出品者多数が各所で展覧会を開催しました。その折、制作にかかるつぶやきを集めました。どのように本展作品に反映されているか鑑賞の手がかりに、また作家の人となりを知るヒントに。

新しい展開を  
念頭に置き、  
いつも何かを  
フワフワと探している  
映画「不都合な真実」  
から10年、果たして  
良い方向には?…

村上佐恵

「独立美術学校」  
から表現の多様性と  
制作の厳しさを学び、  
今は自身の純度を保ちつつ  
説得力のある画面作りに  
苦闘しています。

三浦賢治

“建築の日本展”を観、  
制限の中での設計に明快な  
論理、オーラと強さを感じた。  
最も自由な表現の絵画が  
袋小路に入っていると思え辛い。

向井隆豊

戴いたご講評が、  
絵に反映できてい  
るのかと、  
キャンバスに  
しがみ付いている私。

山添よ志

“コスモス(宇宙)”を  
テーマに、悪戦苦闘。  
様々なご講評に、  
頭の整理が  
うまくつかないのが残念。

足立洋子

見る人が、あっと気を  
ひくような作品を描きたい。  
対象物に観察を深め、  
造形の特徴・美しさを  
自分なりに消化して…。

中原未央

モノクロで描いていますが  
「墨色は七色に輝く」  
という言葉を知り、  
より一層惹き付けられ、  
色を感じてもらえるよう  
な作品を目指しています。

桐明知季

銀座での三人展、  
周辺画廊では独立展の  
人々のパワー炸裂！  
新しいことに挑戦している  
エネルギーに圧倒されて、  
目が覚めた。

田中宏

二人展ではいろいろ  
課題が残った分、  
有意義なことになった。  
京都と対照的な  
都会の空気も制作へ向けて。

芝田キク

毎日が試行錯誤、  
暗中模索。  
絵を描くためだけに  
二、三十年、時計の針を  
巻き戻したい。  
十年では足りまへん。

竹内れい

巨木の森に  
太陽の強い光が差し込む。  
そこだけが広く、  
空に吸い上げられるような  
心に響く空間があり、  
制作の起点となっている。

木上正貢

「モチーフを  
左右対称に入れたがる」  
「無難な色が多い」  
「遊び心が無い」  
う~ん…これは  
ダメ真面目ですね(笑)

湊なつみ

通り過ぎる季節を  
感じながら精一杯生きて、  
何ができるか  
何を残せるのか、  
それをキャンバスに  
表現できたら最高だな！

鈴木佳純

“西郷どん”ブームに習い、  
薩摩から独立の  
獅子たちと一緒に  
江戸を目指しております。  
今年こそは結果を残したい。  
チエスト・キバレ！

前村卓亘

2人展が終り、  
5年前には無かった  
意識が入り込んできた。  
自力で光を放ち、  
今までに無いものが  
表出できるように  
なれば最高！

大津佳代子

36歳という若さで  
亡くなった兄が初個展をした  
同じ画廊で、  
私も初個展を行う。  
兄を超える歳となり、  
兄を偲ぶ供養となつた。

田口緒里砂

# 奥谷博先生文化勲章受章

奥谷博先生が2017年、文化勲章を受章されました。独立美術協会としては林武先生以来50年ぶりの快挙です。今年4月、「奥谷博さんの文化勲章受章を祝う会」が帝国ホテルで盛大に催されました。また、高知県宿毛市ご出身の名誉市民である先生は、宿毛市文教センターでも5月、「奥谷博文化勲章受章記念展」が開催されました。



1.【乾杯】宮田亮平(文化庁長官・東京藝術大学名誉教授)

2.奥谷博先生文化勲章受賞記念祝賀会 3.会場風景

4.「奥谷博 文化勲章受章記念展」式典

(宿毛市文教センターグランドホール)

5.「奥谷博 文化勲章受章記念展」ギャラリートーク

(宿毛市文教センターグランドホール)

6.【祝賀演奏】ヴァイオリン・澤和(東京藝術大学学長)

／ピアノ・蓼沼恵美子

7.【祝辞】大村智(ノーベル生理学・医学賞受賞

・北里大学特別栄誉教授)

8.【発起人代表挨拶】中曾根康弘(元内閣総理大臣)／代読 柳本卓治(参議院議員) 9.【祝辞】林芳正(文部科学大臣)

# 日中平和友好条約締結40周年記念 絹谷幸二 中国・北京個展

会場:北京・清華大学芸術博物館 2018.9.1(土)–23(日)

中国政府の要請により絹谷幸二先生の個展が、2018年9月1日から中国の北京市海淀区の清華大学で行われました。

また、下記日程にて各高島屋及び北海道近代美術館に於いて、先生の個展が開催されます。



オープニングセレモニーの様子 総理からの感謝状を持つ二階幹事長と

日本橋高島屋	2018年10月24日(水)–10月30日(火)	横浜高島屋	2018年12月5日(水)–12月11日(火)
大阪高島屋	2018年11月7日(水)–11月13日(火)	名古屋高島屋	2018年12月19日(水)–12月25日(火)
京都高島屋	2018年11月21日(水)–11月27日(火)	北海道立近代美術館	2018年12月8日(土)–2019年1月27日(日)

第86回独立展より「海老原喜之助賞」「鳥海青児賞」の個人賞が設置されます。新人選抜展で授与された「前田さみ賞」に引き続き、時の美術界に多くの影響を与えた作家の偉業を称え、「海老原喜之助賞」と「鳥海青児賞」を設けることとなった。故・海老原喜之助氏は1934年から独立会員として活躍した、力強い構成と色彩で記憶に新しい作家である。故・鳥海青児氏は1943年より独立会員として活躍し、独自のマチエルとフォルムによって多くの作家に影響を与えた。

**独立美術四国会** 昨年4月「独立美術四国絵画研究会」が発足した。定款を作成して事業計画・予算案など一通りの事柄を決め、当初は研究員20名でスタート(今年は30名)独立展の地方組織としてのはたらきと同時に幅広く多くの人が参加して活動できるような文化的な組織作り、講習会やイベントの開催、機関誌・報告書の発行も考えている。昨年7月、高松市美術館にて第1回「独立美術四国会展」を開催、今井信吾先生・吉武研司先生にもご来場いただきオープニングは盛会となった。また今年7月には、第2回展を開催、絹谷幸二先生・石井武夫先生がご来場くださり、講評会は岡山・広島の出品者も作品写真持参で参加して大いに盛り上がった。今後とも地方から有為な作家が育つよう活動を続けたいと思っている。(中村光幸)



ROPPONGI\_YUHO 新国立美術館、ミッドタウン、六本木ヒルズを囲む地帯に、ふと立ち止まる場所がある。

## 六本木遊歩

「独立展」を観たあとには、周辺を遊歩してみるのも楽しい。



## 独立オリジナルグッズ

以前ご好評をいただいたキャンバスバッグに第二弾登場！今回は大きさも2種類用意しました。スケッチに、普段使いにと大活躍の逸品。会場内で販売します。





## 1 多彩な趣味

車は大好きで、手に入れた旧型車の部品を当時のものに交換するエイジングなどのレストアや、ローダウンなどのカスタマイズを試みる車いじりを楽しんでいました。海外旅行では車で、蚤の市やガレージセール、ホームセンターにもよく行きます。日本にはないデザインの住宅機器を購入したり、バービー人形など色々なものを、コレクションしています。海が大好きで、冬はハワイなど南の島によく行きます。四十肩で、サーフィンのパドリングが辛くなり、シュノーケリングをすることが多くなりました。自宅の大型水槽には、捕獲した海水魚が泳いでいます。

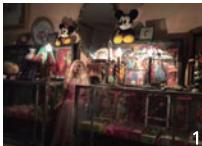
## 2 制作について

藝大の日本画科在学中には創画会に出品していました。同時期に、隣のブースでは、独立展が開催されていたので行って観ると、多様な表現があり、その斬新さに魅せられて次の年から独立展に出品しました。ところが初出品の当時としては、エロティックな作品でしたので「観客からクレームが来たら、

作品をおろしますので、ご了承下さい」と事務所から連絡がありました。観に行くと、トイレに向かう、ほとんど通路のようなところに飾ってありました。学生の頃より一貫して「エロス」をテーマにしています。会員推挙前の10年間は厚い凸凹のレリーフ状の作品、その後のテーマ「楽園」は、よく遊びに行った南国の自然がモチーフになりました。

しかし数年前、独立展出品に向け、制作中の9月29日、突然アトリエの電話が鳴り、私と同じように藝大日本画科を出て絵を描いていた長男の突然の死を告げられました。それを境に、その時期に「楽園」を描く気持ちになれなくなり、独立展出品の作品は、ここ数年、亡き長男、玲皇奈への鎮魂歌です。

1. グアムの朝市で買ったバービー人形など
2. 愛車の一台「MG ミジェット・オーブンカー」
3. リビングルーム



1

2

3



2017年「過ぎ去りし時」F200号  
第85回記念独立展出品作品



2002年「満月の氾濫」F130号  
第70回記念独立展 / 会員推挙

1958 佐賀県生まれ
1982 東京藝術大学美術学部日本画科卒業
1984 同大学院美術研究科日本画専攻修了
2001 第69回独立展にて 独立賞受賞
2002 独立美術協会会員推挙/文化庁現代美術選抜展 収蔵 佐久市立近代美術館